

# ジャパングラブ

NEWS LETTER

Japan Club : 1759 Sutter Street #203, San Francisco, CA 94115 • Tel: 415-931-9424 • www.jc-sf.org • jc-sf@sbcglobal.net

## 3月度理事会議事録

### 今年度の催事予定を検討する

3月の理事会は、3月5日(水)6時30分から7名の理事の参加のもと開かれました、討議内容は下記の通りです。

#### 2008年度の催事予定について

##### 1) ジャパングラブ・ゴルフ大会

ウイローパーク・ゴルフ場で6月29日(日)開催の予定  
9時30分集合、10スタート、会費は \$65.00 です。  
ご質問等ありましたら沖山理事迄。

##### 2) 第14回ジャパングラブ総会

7月18日(金)の予定で、会場を選定する、同時に新しい企画も検討する。

#### ジャパングラブ定期総会について

どうしても事務的な会合になってしまう定期総会にもっと大勢の会員の参加が望めるような企画を募集します。たとえば定期総会の後、

**こんな事をしてみたい、こんな話を聞きたい、  
おいしい食事を楽しみたい...等** 会場となる場所、企画など  
アイデアだけで結構です、ご意見お寄せください。

##### 3) ピクニック

マックニヤー・ビーチで8月24日に開催予定  
昨年好評だったスポットにジャパングラブとして既に予約  
いたしました。

##### 4) 講演会、講習会

\*前回開かれたインターネット講習会が好評であったので  
さらに続けられよう浦田理事に依頼した所、日程を調整  
した上で日時を決め開催して下さるそうです。  
\*ジャパングラブ会員でもあり、ジャパンセンター紀伊国屋  
ビルでアキュパルクチャーを開業しているガワー有子さん  
による「医療気功とヨガ講習会」を5月に予定しております、  
詳細は来月号に掲載されます。(説明記事参照)

#### 講演会、講習会について

大規模な催しでなくても数人の単位で始められる講習会などを考えてお  
ります、これについてはぜひ

**会員の皆様のご希望、ご意見...こんな事をしてみたい、こんな話  
を聞きたい、こんな所に行ってみたい等**をお寄せください。

#### 会報について

1月号に従来通り郵送ニュースレターの希望の有無を問う調査票が同封  
され、多くの会員からお返事をいただきました、先月号で16名でしたが  
さらに増え現在21名の会員がインターネット受信に切り替わりました、  
これにより3月号から各会員の希望される形でニュースレターが配布さ  
れます。アンケートにお返事くださった会員の方、ありがとうございます  
、もしまだお返事が遅れている方、あるいは新しくインターネットを導  
入された方はお知らせください。

#### ジャパングラブ・ホームページの案内 (浦田理事)

杉井清昌氏 IS研究所 所長 セコムのご好意と 甘利 康文氏 同じく IS研  
究所グループリーダーのご熱意で「安心への方法論」と題して日々の安全  
と安心について連載をはじめます。みなさま御参考にしてください。(抜  
粋記事2面にあります)

また、**2008年度餅つき新年会の動画**が掲載されています、ぜひご覧  
ください。

#### 事務局からのお知らせ

4月の理事会は4月2日(水)午後6時30分、日米会会議室にて開きます。

#### 会員申し込みと会費納入依頼

3月31日までにお送りください。

会費は一年 \$35 です(ただし新入会には入会金 \$10 が必要です)

#### 「医療気功とヨガ講習会」

ジャパングラブでは、ジャパンセンター紀伊国屋ビルでアキュパルク  
チャーを開業しているガワー有子さんを講師に医療気功とヨガの講習  
会を計画しており只今受講希望者を募集しております。

この講習会は少人数でも行う予定で、講習日は5月になる予定で、  
開催日、場所、場所等については追ってお知らせします。お問い合わせ  
は福光 (415) 931-4558 もしくは古田 (650) 341-7857 迄ご連絡くだ  
さい。

尚ジャパングラブでは、今年から会員相互の交流と親睦をかねて少人  
数でも開催できる様々な催物や企画を積極的に進める事にしております。  
会員の皆さんで趣味の集いや、こんな講習会をしてほしい等の希望が  
あればどしどし事務局にご意見をお寄せください。

#### 緊急連絡網の具体的運用に向けた試み

会員数6名、その同居家族をあわせても10名が3ブロック内という  
至近距離に住むジャパングラブ緊急連絡網の中で最も小規模のサンフ  
ランシスコ日本町(福光哲史連絡担当者)地域の全会員が「顔の見える  
環境作り」を目的に2月20日正午ホテルとも内カフェマムスに集まり  
初めての顔合わせを行いました、初顔合わせの人もいましたがお互い  
に自分の生活状況、家族構成や住居等について説明し合い、初会合の  
目的はまず達成されました。

その後、18年前のサンフランシスコ地震を全員が体験していて、そ  
の経験から地盤の堅いと云われる日本町地域では地震による直接の被  
害はなかったものの、約一週間にわたった停電に悩まされた事から、各  
家庭に懐中電灯、ローソク、水それに携帯用卓上ガスコンロなどを常に  
用意しておく事、もし避難の必要な場合は日本町テラス中庭が最適な  
場所ではないか等が話し合われました。その上で今後共随時全員が集  
まり、自然災害、事件、事故などにあった場合緊密に連絡が取り合える信  
頼関係を造る事を申し合わせて初会合を終えました。

## ジャパンクラブ・ホームページに今月から連載される 「安心への方法論」から抜粋したものです

### 「安心への方法論」安心に至る3つの方策とは？

日本、東南アジア沿岸、カリフォルニア等の地震多発地域では、昨今の地震によって企業業績が大いに影響を受けるという現実が目の前に突きつけられ、情報化社会の天災への不安から、BCP(Business Continuity Planning; 事業継続計画)への取り組みが盛んになされるようになっていきます。また、個人生活を送る上においても、冷凍食品に混入された毒物によるような食への不安が広がっています。今回は、連載を始めるにあたり、「安心」の本質について考えてみたいと思います。

人は、様々な脅威に取り囲まれながら、日々の生活を送っています。火事、病気、交通事故、疾病、子供の事故や事件、地震、風水災... 枚挙にいとまがなく、心配の種は尽きません。それゆえ人々は、これらの脅威に、さいなまれながら日々を送らざるを得ないのですが、どうすればこれらの脅威をなるべく遠ざけ、心安らげく安寧な日々を送れるのでしょうか。

「家庭の医学」等の病気に関する書物を読むと、いろいろ不安に思うことがある人もいます。今まで知らなかった疾病に対する知識が増えるため、不安に感じるが増えるからです。

心安らかに過ごすためには「脅威を知らずにいる」というのも、一つの有効な選択肢ではあります。しかしこれは「知らぬが仏」の状態であり、脅威が実際に首をもたげた場合、対応が後手後手に回る可能性が大きいのです。そのため、ここでは脅威をきちんと「脅威」として捉えた後に、それに対して積極的に手をうち、安心に至るための「方法論」について考えてみます。

それでは、脅威をきちんと「脅威」として捉え、それに対応していくためにはどのような手を採れば良いのでしょうか。

実は、人が、何らかの脅威に対して不安に思ったとき、とれる対策は3つしかありません。

**1つめ**は「ことを起きにくくする対策」です。この対策を Risk Control 「リスクコントロール」と言います。潜在的に存在する事故発生の可能性をできる限り取り除き、危険を最小化することです。「車の運転中の事故」という脅威を考えた場合、「安全運転の心がけ」「アンチロックブレーキ車に乗る」といった対策がこれです。

**2つめ**は「万が一の時の被害拡大防止準備」です。いくら事故に遭う確率を低くする努力をしても、残念ながらその確率をゼロにすることは出来ません。従って、事故は起こりうるのです。その時に備えて、あらかじめその事故が起こることを想定して、「事故から発生する被害を出来るだけ小さくする準備をしておく」、万が一の際にそれがきちんと機能するようにしておくこと。この対策を Crisis Management 「クライシスマネジメント」と言います。自動車事故で考えた場合、「シートベルトの着用」「チャイルドシートの使用」「エアバッグ車に乗る」等がこれにあたります。

**3つめ**は「万が一の時の金銭的に困らない対策」です。不幸にして万が一の事故が起こり、「被害が出た場合に、それを復旧し、影響がなるべく残らないようにするための金銭的担保手段をあらかじめ準備しておく」こと。この対策を Risk Finance 「リスクファイナンス」と言います。自動車事故で考えた場合、「自動車保険に加入する」ことがこれにあたります。

この3つが、人が、脅威に対して不安に感じた時に、その脅威の影響をできるだけ少なくするためにできることの全てであり、これら3つの対策を全て施すことで「人事を尽くした」ということになるのです。

これら3つは、どれかをしたから、どれかをしなくて良いというものではありません。

シートベルトをしたからといって無謀な運転をして良い、自動車保険に加入しなくて良い、というわけではありません。自動車保険に加入したから、無謀運転をしたり、シートベルトをしなくて良かったり、ということもありません。安全運転をしているから保険に加入しなくて良い、シートベルトをしなくて良い、も暴論です。すなわち、これら3つは独立した形で、別々に実施しなければならぬということです。



車の運転の例で説明しましたが、3つの対策は、あらゆる脅威、不安に対して言えることです。例えば、火事という脅威に対しては、「火の元注意」「難燃建材の使用」等がリスクコントロール、「消火器の設置」「避難訓練実施」等がクライシスマネジメント、「火災保険加入」等がリスクファイナンスということになります。病気という脅威に対しては、それぞれ「健康に気をつけた生活」、「人間ドックの定期的受診(病気の早期発見と対応)」、「医療保険加入」となりますし、失業という脅威に対しては、「職場内における自己価値向上」、「広くどこでも通用する能力の習得」、「失業保険、所得保障保険への加入」等がこの3つにあたります。

最近、「リスクマネジメント」という言葉をよく耳にしますが、リスクマネジメントとは、この3要素を組み合わせることにより、脅威の影響を少なくする方法論のことをさします。脅威をきちんと把握し、不安に思った時に人が出来ることの全てであるこれら3つを実現することで、はじめて人は安心していられます。

ここでは、例として、具体的に火災というインシデントを例にとってリスクマネジメントの手順を考えてみましょう。

まず、なるべく火災を起こさないようにするための「リスク低減」策として、「燃えにくい建材で建物を建てる」という物理的対策、「火の用心の心がけ」という運用的対策によるリスクコントロールを行います。

これらの対策は火災発生というリスクを低減させはしますが、そのリスクを完全にゼロにはできません。そのため、火災発生のリスクが具現化し、実際の火災が起こってしまった場合の、万が一の「事前準備」として、「火災報知器」「消火器」設置等の物理的準備、「避難訓練」「消火訓練」実施等の運用的準備、「火災保険」加入、「損害引当金」用意等の金銭的準備を行います。これらの「事前準備」があつてこそ、いざことが起きた場合の早期避難、初期消火等の「初動対応」が可能となります。この「事前準備」と「初動対応」を合わせたものが「クライシスマネジメント」にあたります。

一連の手順の最後が「復旧」と呼ばれるフェーズです。事前準備の際に加入していた火災保険の保険金を請求したり、用意していた損害引当金を取り崩したりして復旧に充てます。この火災保険への加入と保険金請求、損害引当金の用意と取り崩しなどを併せたものが「リスクファイナンス」です。

リスクコントロール、リスクファイナンス、クライシスマネジメントの3つは、一つをやったから一つをやらなくて良いというものではないということが解ります。3つそれぞれを独立させて、バランスを取りながら手を打っていく必要があると言えます。

脅威にきちんと正対し、安心に至るためには、正しい「脅威の認識」と、その「脅威に対する3つの対策」が必要であることがお解り頂けたかと思います。

杉井清昌氏 IS研究所 所長  
甘利康文氏 IS研究所 セキュリティコンサルティンググループ リーダー  
筑波大学大学院リスク工学専攻課程非常勤講師  
防犯設備士、  
日本リスクコンサルタント協会認定シニアリスクコンサルタント

表記の通りこの記事はジャパンクラブ・ホームページに杉井清昌氏 (IS研究所 所長 セコム) 甘利康文氏 (IS研究所 グループリーダー) のご好意で今月号から掲載されたものから抜粋し掲載させていただきました、今後も紙面の許す範囲で掲載します。